■企画・制作：県立港北高等学校同窓会「思港会」　■編集・発行：株式会社タウンニュース社

県立港北高等学校 50周年

思港
50周年記念特別号
2020年（令和2年）1月

◆50周年式典、開催
◆祝賀会のエピソード
◆同窓会活動より
◆応援歌の披露
◆恩師からのメッセージ

自主性重んじる母校ならでは

神奈川県立港北高等学校（坂田輝之校長）の創立50周年記念式典が2019年11月20日、カルッツかわさきで行われました。生徒の活動発表では、インターン体験の報告のほか、50周年記念事業の一環として制定された同校の応援ソング「じぶんいろ」が披露されるなど、自主性を大切にする我が母校ならではの式典となりました。

1969年の創立以来、約1万7000人の卒業生を輩出してきた港北高校では、課題を解決するために必要な「自学力（自ら主体的に学び続ける力）」の育成に力を入れています。

感謝の気持ち新たに

記念式典には、生徒やその保護者、教職員、PTA、同窓生らが出席しました。式典では、「多くの人に支えられてきた」（町田裕昭実行委員長）、「優れた人材を輩出してこられたのは、歴代の教職員やPTA、同窓会の皆様あってこそ」（坂田校長）、「地域との関係性は一朝一夕に築けるものではなく、皆さまの努力によるもの」（山下幸子PTA会長）などと、一様に関係者への感謝の言葉が並びました。

思港会からは、嶋村公会長（4期生）があいさつに立ち＝左下写真＝、在学時には授業としてグラウンドの石拾いや草刈りを行った思い出を語るとともに、①50周年記念事業に協力すること②同窓会活動への理解を深めること③同窓生のコミュニケーションの場をつくること④記念事業に向け同窓会費を積み立てること――を目標としてきた同窓会活動について振り返りました。また、一層グローバル化が進む社会情勢を踏まえ、在校生に対し「英語力を身に着け、海外の皆さんとのコミュニケーションにチャレンジを」と激励し、「高校生活を満喫し次のステップへ進んでほしい」と呼びかけました。

生徒代表として登壇した安本好さん（3年）は「50周年を迎えた今、港北高校のために何ができるか、また次の代に何を残せるか、よく考えて行動したい」と希望に満ちた表情で決意を新たにしていました。

生徒活動発表では、インターンシップ体験の報告や、50周年を記念して制定された港北生応援ソング「じぶんいろ」＝**裏面で歌詞や制定経緯を紹介**＝も、スライドを使って披露されました。

生徒や教職員、歴代校長、PTA、地域、卒業生など、港北高校の歩みに携わるすべての人への感謝を心に刻み、未来に向けた希望を新たにした素晴らしい式典となりました。

学び舎の思い出がつまった卒業アルバム（港北高校図書室保管）

新校舎の建設現場（左／平成25年頃）と桜に包まれた特別教室棟（右）

盛り上がった祝賀会

川崎日航ホテル・鳳凰の間

記念グッズを手に、写真撮影する同窓生

記念式典を無事に終えると、会場を川崎日航ホテルに移して、記念祝賀会が行われました。

皆、在校した期数と名前の書かれたプレートを胸に出席した式典では、「覚えてるわよー」などと、会場のあちこちで思い出話に花を咲かせるシーンが見られました。

英語を教わった恩師との再会を果たし、「英語が分かりやすく、好きになった」と振り返ったのは富樫順子さんと三浦由美子さん。同級生の三浦英昭さんと夫婦で参加した由美子さんは、英昭さんとは在学中の2年時、3年時で同じクラスでした。卒業後の同期会で再開したことがきっかけとなって結婚したそうです。「自由でおもしろい学校でした」と母校への思いを話してくれました。

港北高等学校 校歌

作詞・作曲　米山正夫

一、仰ぎ見る白い雲 大倉山の朝
こゝに集い こゝに学ぶ
三年（みとせ）の月日
あゝそれはわれらの人生の
尊いページを 開くとき
仰ぎ見るわが母校 港北高校

二、風そよぐ鶴見川 見下ろす学び舎に
友と語り友と歌う 楽しい窓辺
あゝいつも変わらぬ友情を
大きく支えるその誠実（まこと）
風そよぐわが母校 港北高校

三、忘れえぬ校庭よ 太尾のこの土よ
胸に映し胸に刻む
記念樹（いちょう）のこゞろ
あゝやがて大樹になるために
緑の梢のたくましく
忘れ得ぬわが母校 港北高校

母校に寄り添う 同窓会活動

会報「思港」定期発行

思港会は「卒業生と在校生を結びつけ、伝統の中心に若い力を取り入れやすくする母体であるべき」と1期生卒業時の創設以来、常に我が母校に寄り添い活動を続けてきました。

2006年9月には思港会の活性化を図ろうと新体制を発足させ、会長に加藤務さん（4期生）が就任しました。そして新規加盟会員への同窓会の趣旨説明や勧誘の再開、1万人を超える会員への連絡手段の整備、総会の開催などに取り組んできました。

07年1月には会報「思港」の記念すべき第1号を発行、また、09年春にはホームページを完成させ、さらに翌年には初の懇親会を開催するなど、情報発信や会員同士の交流も積極的に進めてきました。

11年の6月総会では新会長に嶋村公さん（4期生）が就任し、会報「思港」を発行することで、母校の存在を通じて人の和を広げる方針を掲げました。

母校とのかかわりでは、校内緑化活動の推進や思港祭（文化祭）への参加のほか、生徒活動支援として関東大会以上に出場した部活動・個人に対し、横断幕の寄贈を続けています。横断幕の数々は、まさに港北高生徒が目標に向かって日々、練習に励んできた努力の証です。

昨年も、4年連続高等学校総合文化祭全国大会に出場、また5年連続でNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に出場した放送部、第6回全国高等学校軽音楽コンテスト2位の軽音楽部、全国高等学校総合文化祭佐賀大会に出場した書道部、ダンススタジアム新人戦・東日本大会でストリートダンス協会賞を受賞したダンス部、関東高等学校陸上競技大会に女子砲丸投げで出場した陸上競技部等の横断幕が学校に掲示され、地域の多くの人たちにも目にしていただきました。

このように、現役の生徒の活躍は、私たち思港会にとっても大きな誇りですので、これからも応援を続けていきたいと思います。

校庭を囲むフェンスに掲げられた横断幕は、生徒の努力の証

教室に新型プロジェクター

思港会では、港北高校創立50周年を記念して新型のプロジェクター＝写真＝を寄贈しました。

寄贈した電子黒板機能搭載プロジェクターは、常設タイプで、授業での問を黒板に投写したり、投写した映像にチョークで書き込みをしたり、さまざまな活用法があります。これにより港北高校では、さらなる授業力向上に取り組んでいます。

教員歴7年、国語科の佐藤麗奈教諭は、このプロジェクターを主に漢文・古文の授業で使用しています。教科書の内容を投影できるので「皆で顔を上げ、一カ所を見て学ぶことができるのが利点」と佐藤教諭。画像・映像を生徒に素早く見せることができるため、教科書以外の教材も用いやすくなったそうです。

現役生が作詞・作曲、応援歌

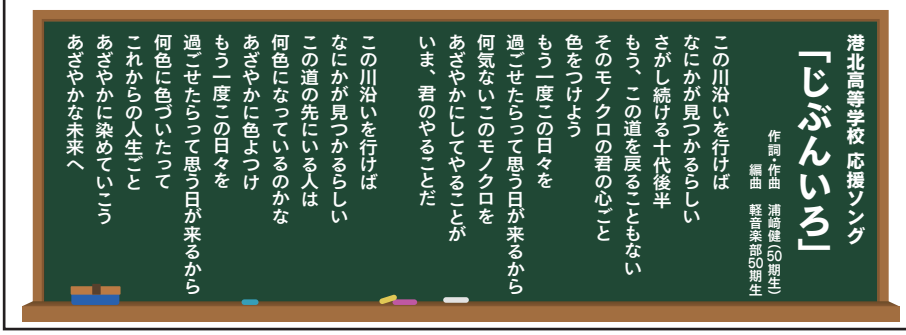
50周年を記念して皆で歌える応援ソングを制定してはどうか――。そんな意見が実行委員会から出されたことから、全校生徒を対象に募集し、「じぶんいろ」が選ばれました。

作詞・作曲は50期生の浦﨑さん、編曲は軽音楽部50期生。50周年記念事業としてゼロから作成された曲は、港北高校らしいものになるよう、歌詞や曲編成に試行錯誤を重ねたそうです。

曲には、浦﨑さんの「今は同じ高校に通う仲間が、卒業し、いろいろな職業に就いていく。その一人一人違う道をそれぞれの『色』として表現した」との思いが込められています。港北高校について浦﨑さんは「文化祭などの行事が盛り上がる学校。それでいてしっかりしている部分も多いのが好きなところ」と話してくれました。

また、「歌詞（の意味）を伝えられるように気をつけた」という軽音楽部部長の平林実桜さんは、「辛いことや嫌なことがあったときも軽く口ずさんでほしい。この高校に来て良かったと元気になってほしい」と目をキラキラと輝かせていました。

記念式典で曲が披露された後のある日、浦﨑さんが友人と歩いていると、浦﨑さんと面識のない先輩が、その友人に「あの歌めっちゃ好き」と話し、実は隣にいるのが曲をつくった浦﨑さんだったというエピソードも。「じぶんいろ」は、港北高生の心をしっかりとらえたようです。



恩師からのメッセージ

港北高校創立50周年記念祝賀会に出席された4人の恩師に当時の思い出やメッセージを語っていただきました。※インタビュー順〈年齢／就任時期／科目〉

◆北村幹雄先生〈78歳／創立5年に就任／日本史〉

剣道部顧問でもあり、部員と一緒に技術を磨きました。当時のきつい練習経験がその後の人生の役に立ったのではと思います。50年の節目は新たな出発点でもあり、今後のさらなる発展を期待します。

◆本郷亮先生〈80歳／創立2年に就任／体育〉

鶴見川が氾濫し部室が浸水したり、体育の授業ではグラウンド整備で石や針金を拾うなど、一番思い出のある高校です。生徒は皆、穏やかで立派、学力も高い。胸を張って社会で活躍してほしい。

◆高橋照子先生〈76歳／創立2年に就任／英語〉

初めて担任をもって、初めて卒業生を送り出した思い出深い高校です。あれから年月が経ち、とても立派な学校になった。少子化の中、「50年」は素晴らしいこと。これからも長く続いてほしいです。

◆臼井良雄先生〈80歳／創立2年に就任／英語〉

はじめての交換留学で生徒10人を引率してアメリカ・ワシントン州に行ったことが思い出されます。50年の節目を迎え、自分の学校を大事にし、諸先輩の実績を大切に今後につなげていってほしい。

港北高校の思い出を語る（左上から時計回りに）臼井良雄先生、北村幹雄先生、本郷亮先生、髙橋照子先生